



描きたいから
描く。



岩田 三郎 (74) 大阪市生まれ、羽曳野市在住
大阪市立第二工芸高校卒業。10代から広告代理店やデザイン会社に勤務。
現在はイラストレーター「さぶじい」として日々創作活動に勤しむ。

デザインが好き、ただそれだけ

幼い頃から絵を描くことが好きで、工芸高校へ通いながら大阪市立美術館の美術研究所でデッサンを学ぶ。デザイン会社でアルバイトもし、高校卒業後も、自然とデザインの道を歩んだ。「勤務時間はあつてないようなもの、残業とも思わず連日深夜まで働いた。何より、仕事が楽しかった。」

みんなをあとと言わせた

退職後、好きだったイラストレーションに本腰を入れ始める。描くからには、とポスターコンクールなどに応募するようになり、近年では「交通安全ポスターデザイン」内閣総理大臣賞(最優秀賞)を2014年から2年連続、「防災ポスターコンクール」防災担当大臣賞(2012年)、「オレンジリボン運動公式ポスターコンテスト」最優秀賞(2012年)など、受賞を重ねている。



▲自宅にて、製作中の作品やトロフィーなど

月に一度は子どもたち3~4人にお絵かき教室を開催する。1年分まとめた作品を製本してプレゼントすると、子どもだけでなく親も喜んでくれる。「絵本には人を幸せにする力があるのかもしれない。」と。

現在は絵本を出版したいと考えている。自分のイラストレーションで少しでも多くの人々の目と心を休めたいと、創作意欲は常に溢れている。



今のペースにぴったりの場所

羽曳野には8年前から、妻と二人で住み始めた。終の棲家を探していたときに、建築士である娘が見つけた物件で、設計も娘が手がけてくれた。健康づくりのため、恵我之荘にある自宅から雄略陵古墳、陵南の森方面へ、戻って、大塚山古墳を一周して自宅へゴールするのがお決



まりのウォーキングコース。早歩きで1時間ほど、天気が良ければほぼ毎日散策する、もう歩き慣れた道のりだ。「羽曳野は自然に囲まれた地域ながら、都会の便利さも備えていて、住みやすいまち。近いうちに訪れたいのは、道の駅しらとりの郷です。緑豊かなこの地で、これからも制作を続けていきたいです。」

・・・編集後記・・・

テーマを決めての作品づくりが多く、「多少の制限がある方がイメージが湧きやすい」とデザイナー気質は抜けられない様子だった。作品のやさしいタッチには岩田さんの人柄が滲み出ている。「さぶじい」の絵本の出版が待ち遠しい。